

1983年の台風5号により神奈川に漂着した海鳥について

中村 一 恵 ・ 大 坂 豊 ・ 竹 内 敏 夫

Notes on the pelagic seabirds drifted inland by a typhoon in 1983

Kazue NAKAMURA, Yutaka OSAKA, and Toshio TAKEUCHI

1983年8月、2種の外洋性海鳥がこの年の台風5号（渥美半島上陸）に運ばれ、神奈川に漂着した。このうちオオシロハラミズナギドリ *Pterodroma externa* の日本における捕獲例は極めて少なく、むしろ神奈川における最初の記録でもある。本種には南太平洋の亜熱帯海域に東西に遠く隔離された二つの個体群があり、2亜種に分類されている（Mayr and Cottrell, 1979）。ひとつはニュージーランドの北東600マイルに位置するカーマデック諸島に繁殖する個体群 *P. e. cervicalis* であり、もうひとつは南米チリ沖のファンフェルナンデス諸島のマスアエラ島に繁殖する個体群 *P. e. externa* である（以下 *cervicalis*, *externa* と書く）。

今回採集された個体は以下に述べる特徴から疑いなく *cervicalis* と同定でき、南太平洋西部の個体群に含まれる。これまでの記録は *cervicalis* のみであった（O. S. J., 1974）が、1982年に *externa* が初めて記録され（藤村仁、未発表）、日本でオオシロハラミズナギドリと呼ばれるものの中に2亜種含まれることが確実となった。それ故、ここではとくに南米の亜種との比較で今回の捕獲個体の特徴に触れ、今後の参考資料としたい。

報告に先だち、未発表資料の使用を快諾された藤村仁氏並びに標本調査および資料収集の過程でご協力下さった笹川昭雄氏（山階鳥類研究所）、伊藤正宏氏（県自然保護センター）、新井一政氏（県立博物館）、以上の方々すべてに対し厚く御礼申し上げる。

観察結果および考察

1. オオシロハラミズナギドリ *Pterodroma externa cervicalis*

1983年8月17日、鎌倉市笹目町で捕獲され、野毛山

動物園に収容保護された（図1）。

頭頂は褐色をおびた黒（*externa* では褐色をおびた灰色）。後頸は幅広く白く背の灰色と分離する（*externa* ではこのような白頸輪を欠く）。最外側初列風切内弁はほとんど白色味を欠く（*externa* では広く白い）。翼縁と翼角を経て雨覆に達する黒線は細いが顕著に翼下面に現出する（*externa* では弱く不明瞭）。外側尾羽（最外側の2枚）がほとんどの部分で白い（*externa* では基部内弁のみ白い）。尾羽羽軸はすべての尾羽で黒または暗褐色ではない（*externa* ではすべての尾羽で黒または黒褐色）。なお、この個体は両趾とも欠損しており、色彩についての観察はできなかった。

1962年7月、名古屋市で捕獲された一例が日本における *cervicalis* の唯1の記録であり（KURODA, 1962）、非常に稀な採集例と考えられてきた（O. S. J., 1974）、しかし、最近の海上における調査の結果、7月以降の夏期から秋期、北緯35度付近までの日本近海亜熱帯海域に *cervicalis* が規則的に北上してきていることが明らかにされた（田中・稲葉, 1981）。その後、1982年7月に小笠原航路でも目撃され（藤波, 1982）、さらにこの年の8月3日に群馬県藤岡市、栃木県足利市で捕獲され（以上 *cervicalis*）、同じ年の9月13日、東京八王子市（*externa*）でも記録された。従って、日本産の標本記録としては、名古屋、藤岡、太田、足利、八王子、鎌倉各市からの5羽5例知られたことになる。いずれも台風による陸地への漂着記録である。

鎌倉標本の外部計測値をニュージーランド国立博物館標本（n=14）との比較で表1に示す。FALLA（1976）によると、カーマデック諸島の個体群はニュージーランド国立博標本に基づく測定範囲に落ちるが、ニューヘブリデス諸島のパンクス島の東方約48kmの海上で捕

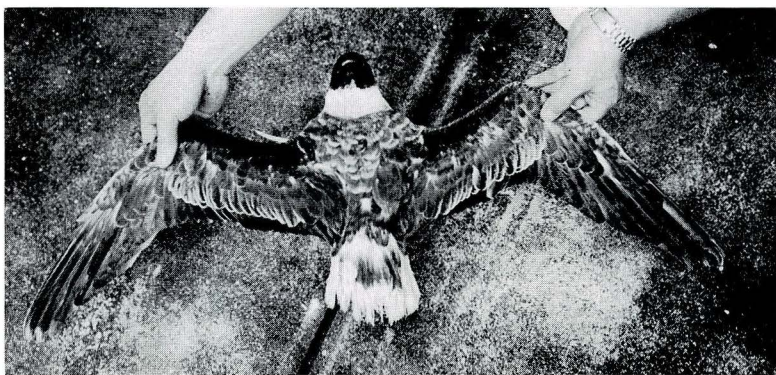
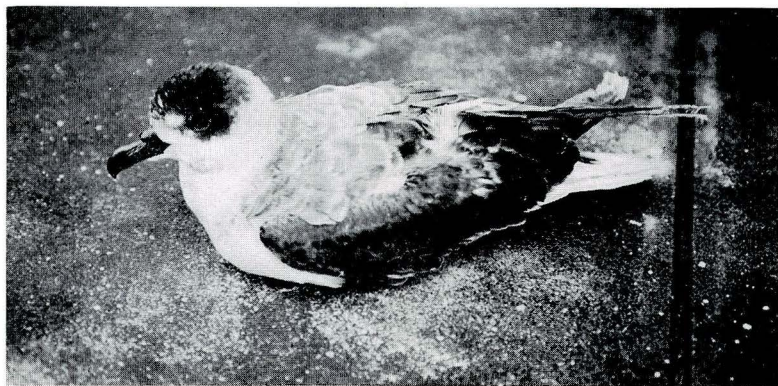


図1. オオシロハラミズナギドリ
Pterodroma externa cervicalis

表1. オオシロハラミズナギドリ *P. externa cervicalis* の外部計測値 (mm)

標 本	性	翼 長	尾 長	跗蹠長	嘴 峰 長	測定者
ニュージーランド国立博標本	mixed	312 (301-322.5)	136 (132-142)	42 (40-46)	36.4 (34.5-38.5)	FALLA
名 古 屋 標 本	♂	295	128	39	36	黒田長久
藤 岡 標 本	♂	302	129.2	40.6	35.7	藤村 仁
大 田 標 本	♂	285	119	40	38.0	//
鎌 倉 標 本	—	294	130	41.5	35.8	中村一恵

日本産標本はすべて換羽中のもの。

獲された6個体(アメリカ自然史博標本)はすべて一様にカーマデック諸島の個体群より小形であるという。その典型的な個体(♂)の計測値として、翼長275mm, 尾長125mm, 跗蹠長36mm, 露出嘴峰33mmの値を挙げている。*cervicalis* はカーマデック諸島のラオール島(29°15'S, 177°55'W)にのみ繁殖するとされ, かつては同島に多数繁殖していたが, 個体数を急激に減少させ, 今にも絶滅するのではないかと考えられていた。しかし最近, ここよりやや南に位置するマコオリー島(Macaley)で繁殖中の繁殖個体群が発見されている(KINSKY, 1971)。今回の新標本を含めた日本産標本は上記小形個体(個体群?)よりはむしろカーマデック諸島の個体群に近づいた値が得られていること(表1), 同諸島が現在 *cervicalis* の唯1の繁殖地として挙げられていることから, 現段階では日本産のものはカーマデック諸島に由来すると考えて良いと思う。

ハワイ南東沖の中部太平洋熱帯海区においては両亜種が記録されているが, *cervicalis* は目撃総数の2%(最大16%)を占めるにすぎず, ここで採集された個体はすべて *externa* である(KING, 1970)。メキシコ西部沖のクリッパー島近海においても15個体採集されているがすべて *externa* である(LOOMIS, 1918)。一方, 太平洋西部では *externa* は目撃されておらず, 日本における標本記録も, 前述したように5例中4例が *cervicalis* である。*externa* の1例はこの亜種がハワイよりさらに西進して太平洋西部に達している可能性を示唆するものであるが, しかし, これまでの日本および近海における記録を総合して判断するならば, 太平洋中・西部に *cervicalis*, 中・東部に *externa* がそれぞれ卓越し, 2亜種の洋上分布は基本的には異所棲的である可能性が高い。

2. セグロアジサシ *Sterna fuscata* ssp.

第1例: 1983年8月17日, 大磯町大磯海岸で捕獲され, 県自然保護センターに収容保護された。

第2例: 1983年8月18日, 鎌倉市稲村ヶ崎で捕獲され, 野毛山動物園に収容保護された。

本種は周赤道的(circumequatorial)に太平洋, インド洋, 大西洋の熱帯・亜熱帯圏に広く分布し, 日本では, 小笠原諸島, 南鳥島, 南部琉球, 尖閣列島に繁殖するが, 本州, 四国, 九州における記録は少ない。

県内においては, これまでに, 三浦市三崎(1904年7月10日), 相模原市下溝(1966年9月25日, 幼鳥), 茅ヶ崎市湘南大橋付近(1966年9月25日, 成鳥), 相模川河口(1966年9月26日), 横浜市(1968年4月26日, 成鳥), 鎌倉市腰越(1978年8月26日, 成鳥), 相模川河口(1975年8月23日, 幼鳥), 三浦海岸(1978年8月4日, 亜成鳥), 藤沢市鵠沼(1978年8月4日, 成鳥), 鎌倉市浄明寺(1978年8月23日, 幼鳥)の10例知られ, 今回の記録は第11, 12例目に相当するものと思われる。

これらのうち, 茅ヶ崎市, 横浜市, 鎌倉市腰越からの記録は, それぞれミッドウェイ, レイサン, タオンギで標識された鳥である。これまでの日本における標識鳥の回収記録(そのほとんどが直接台風と関連して回収されている)に基づく限り, 本州, 四国, 九州に迷行するセグロアジサシは, 上記の島, 環礁を含め, すべてハワイ諸島, ジョンストン, ウエーキ各環礁, マーシャル諸島など中部太平洋北部および中西部に繁殖する個体群 *S. f. oahuensis* に由来し, 琉球に繁殖する個体群 *S. f. nubilosa* (シナ海からインド洋にかけて繁殖)を含まない(中村, 1982)。セグロアジサシの分布は非常に広い。少なくとも我国においては広範囲にわたって収集された標本群がなく, 比較研究は困難である。標識個体でない限り迷行個体の亜種の決定は不可能であると思う。しかしながら, 台風による

迷行であるところから推定して、中部太平洋に繁殖する個体群 *oahuensis* に含まれる可能性が高い、ということだけは言えよう。

文 献

- FALLA, R. A. 1976 Notes on the gadfly petrels *Pterodroma externa* & *P. e. cervicalis*. *Notornis*, 23 : 320-322.
- 藤波不二雄 1982 オオシロハラミズナギドリ(野鳥情報). 野鳥 47 (10) : 33.
- KING, W. B. 1970 The Trade Wind Zone Oceanography pilot study. Part VII : Observations of sea birds March 1964 to June 1965. U. S. Fish Wildl. Serv. Spec. Sci. Rep. Fish. 586.
- KINSKY, F. C. 1971 Recent occurrence of rare petrels in New Zealand. *Notornis*, 18 : 215-216.
- KURODA, NH. 1962 The first record of the white-necked gadfly petrel *Pterodroma externa cervicalis* from Japan. *Miscle Rep Yamashina Ornith. Zool.* 3 : 222-224.
- LOOMIS, L. M. 1918 A review of the albatrosses, petrels, and diving petrels. *Proc. Calif. Acad. Sci.*, (2) Pt. 2, 12 : 1-187.
- MAYR, E. and G. W. COTTRELL 1979 Check-list of birds of the world, vol. 1, 2nd ed. Revision of the work of James L. Peters. *Mus. Comp. Zool.*, Cambridge Massachusetts.
- 中村一恵 1982 日本のセグロアジサシ. 神奈川博研報 (自然科学), 13 : 37-50.
- 田中 裕・稲葉不二夫 1981 北太平洋西部及び日本近海におけるオオシロハラミズナギドリの季節的分布並びに移動について. 山階鳥研報, 13 : 207-214.
- Ornithological Society of Japan* 1974 Check-list of Japanese birds. Gekken, Tokyo.
- (中村一恵 : 神奈川県立博物館, 大坂豊 : 横浜市野毛山動物園, 竹内敏夫 : 横浜市野毛山動物園)